



北京外国語大学

柳谷 萌美
文教育学部言語文化学科

「留学は生き方を学ぶ場」—留学経験のある友達が、中国へ旅立つ私に向けてくれた言葉です。10ヵ月間の中国留学を経験して、本当にその通りだなと思いました。私の留学先である北京外国語大学にはアジアをはじめヨーロッパやアフリカなど様々な国から幅広い年代の人が中国語を学びに来ています。そのような自分とは背景が全く異なる人たちと交わることで、他国の文化や価値観に触れて視野も広がり、自分の価値観も変わったと思います。留学期間はたった10ヵ月間だったけれど、日本で過ごした20年間をぎゅっと凝縮したくらいに濃い生活を送ることができました。

留学中、最初から最後までずっと楽しかったのかと言えば、実はそうではありません。留学前の私の中国語レベルは簡単な自己紹介ができる程度。言葉が通じない、知り合いもいない環境に飛び込んでちゃんと生活できるのか不安に押しつぶされそうでした。いざ中国へ行くと、やはり授業中や友達との会話で中国語が全く聞き取れず、言いたいことも言えず、最初の1ヶ月は辛かったです。しかし週に50分×20コマの授業を予習復習欠かさずこなし、日本人学科の中国人と相互学習も行うことで、1ヶ月も経つと先生の話や9割聞き取れるくらいに耳が慣れ、着実な進歩にびっくりしました。クラスには日本人が私一人しかおらず、毎日嫌でも中国語を使わなければいけない状況におかれたことで、目に見える速さで中国語が上達していったのだと思います。日常会話ができるようになると、友達や店員とも楽しく会話ができ交流の幅が広がります。親密な外国人の友達ができ始めた2ヶ月目くらいから、私の中国生活は一気に楽しくなりました。「もっと伝えたい！もっと理解したい！」という気持ちや、長いスパンでの中国語の勉強モチベーションの維持につながったのだと思います。友達の中には親友と呼べるほど仲良くなった子もいて、友情に国籍は関係ないのだと改めて実感しました。

生活面では中国の物価が安くてとても助かりました。学食は1食10元未満、つまり120円もしません。ですから1ヶ月に1000元（約1万2千円）あれば最低限の生活はできます。北京には日本人がたくさん住んでいるため、日本料理やカラオケ、漫画喫茶もあり、たまに日本シックになった時には足を運びました。中国の飲食店の従業員は無愛想、携帯をいじりながら接客、しまいにはスカイプをしだす。はじめは文化の違いに驚きましたが、今では中国の生活に慣れてしまっていて日本の過剰なまでのサービスにびっくりするくらいです。ことあるごとに、しかも生活の細部にいたるまでの文化の違いを肌で感じるができるのは、留学の醍醐味だと思います。これから留学に行く方は、留学中は積極的に外へ出て文化の違いを感じ、日本を外から客観的に眺めてほしいと思います。そうすることで初めて自分の進むべき道が見えてくると思います。



留学を通して、語学の面では中国語の国家試験である新HSKにおいて、最高級の6級を取得することができました。また中国国内旅行にもたくさん出かけて、中国人のバイタリティーと雄大な遺跡からパワーをもらいました。笑いと涙の10ヵ月間。たくさんのことを経験して、本当の「自分らしさ」というものを手にした気がします。有意義な留学になるよう手助けして下さった岡村先生や井神さんをはじめ国際交流チームの方々や家族には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。谢谢。